

委託事業実施内容報告書

平成21年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【日本語教室の設置運営】

受託団体名 ソヒゾ・デ・クリアンサ日伯交流協会

1 事業の趣旨・目的

- (1) 派遣切りで職を失った日本語のできない日系ブラジル人を対象にした、より実践的な日本語の習得を目指す。
- (2) 年齢に応じたクラスを2つ設け、書道やそろばんなどの講座の中で日本文化を体験する。

2 運営委員会の開催について

【概要】

開催日時	出席者	議題	会議の概要
21年5月18日	栗林、太田理恵、太田理重子、妻木、高梨	・文化庁事業の事業計画書作成にあたって	・どんな日本語教室を設置するのか ・授業の日程及び教師の人選など
21年12月7日	栗林、太田理恵、太田理重子、妻木、高梨	・授業は円滑に行われているか	・子どもたちの現状と課題について

3 日本語教室の開催について

- ① 日本語教室の名称 「大人のための初級日本語講座」
- ② 開催場所 ソヒゾ・デ・クリアンサ教育センター
- ③ 学習目標 ひらがなをはじめとした文字の習得、日常会話の習得
- ④ 使用した教材・リソース 「にほんご45じかん」、ひらがなかるたなど
- ⑤ 受講者の募集方法 チラシを作り、ブラジル人が多く購読している情報誌とともに配布。
学校に通っているブラジル人の保護者やその関係者にもチラシを配布。
- ⑥ 受講者の総数 34 人
- ⑦ 開催時間数(回数) 48 時間 (全 32 回)

⑧ 日本語教室の具体的内容

回	開催日時	時間数	参加人数	国籍・母語(人)	教授者・補助者人数	内容
①	7月 4日 19:00~20:30	1. 5 時間	10人	ブラジル・ポルトガル語(10人)	教授者1人 補助者1人	自己紹介 七夕短冊飾り
②	7月11日	1. 5	12人	同上(12人)	同上	一文字言葉
③	7月18日	1. 5	13人	同上(13人)	同上	日本の乗り物
④	7月25日	1. 5	17人	同上(17人)	同上	一文字言葉
⑤	8月 1日	1. 5	12人	同上(12人)	同上	語彙を増やす
⑥	8月 8日	1. 5	8人	同上(8人)	同上	知りません
⑦	8月22日	1. 5	11人	同上(11人)	同上	挨拶の仕方
⑧	8月29日	1. 5	12人	同上(12人)	同上	時間の言い方
⑨	9月 5日	1. 5	8人	同上(8人)	同上	絵カード
⑩	9月12日	1. 5	10人	同上(10人)	同上	～して下さい
⑪	9月19日	1. 5	9人	同上(9人)	同上	動詞の文型
⑫	9月26日	1. 5	8人	同上(8人)	同上	テキスト終了
⑬	10月 3日	1. 5	8人	同上(8人)	同上	しています
⑭	10月10日	1. 5	7人	同上(7人)	同上	郵便局で
⑮	10月17日	1. 5	8人	同上(8人)	同上	～の上に
⑯	10月24日	1. 5	9人	同上(9人)	同上	日・月の言い方
⑰	10月31日	1. 5	7人	同上(7人)	同上	借りる、貸す
⑱	11月 7日	1. 5	8人	同上(8人)	同上	方角を表す
⑲	11月14日	1. 5	7人	同上(7人)	同上	病院、美容院
⑳	11月21日	1. 5	7人	同上(7人)	同上	暦と行事
㉑	11月28日	1. 5	4人	同上(4人)	同上	カレンダー
㉒	12月 5日	1. 5	4人	同上(4人)	同上	年賀状作成
㉓	12月19日	1. 5	4人	同上(4人)	同上	年賀状作成
㉔	1月 9日	1. 5	6人	同上(6人)	同上	方向を指示
㉕	1月16日	1. 5	8人	同上(8人)	同上	自分の住所
㉖	1月23日	1. 5	8人	同上(8人)	同上	口座開設
㉗	1月30日	1. 5	7人	同上(7人)	同上	動詞の過去形
㉘	2月13日	1. 5	3人	同上(3人)	同上	星の観察会
㉙	2月20日	1. 5	7人	同上(7人)	同上	促音の言い方
㉚	2月27日	1. 5	4人	同上(4人)	同上	発表会の準備
㉛	3月 6日	1. 5	6人	同上(6人)	教授者1人	動詞+動詞
㉜	3月13日	1. 5	10人	同上(10人)	教授者2人	まとめと発表

⑨ 特徴的な授業風景(2～3回分)

平成21年10月13日(土) 19:00~20:30 教授者:眞野麗子

テキスト:「にほんご45じかん」P43

語彙:公園、病院、ホテル、駅、バス停、交番、くすりや、レストラン、喫茶店

タクシー、バス、電話、ポスト、プール、歩いて、近い⇔遠い etc.

文型:① ~の上に;つくえの上にはさみがあります。

② ~の下に;テーブルの下にねこがいます。

③ ~の前に;駅の前に銀行があります。銀行は駅の前にあります。

・教室や家など身近にあるものを使って表現の練習をさせた。

・上記以外にそばに、前に、後ろに、左右、外になど方向を示す言葉をたくさん提示し、いろいろな物の言葉と組み合わせて練習させた。

平成 22 年 3 月 13 日(土) 19:00~20:30 教授者:眞野麗子、渡邊たつえ

「まとめと発表」

日本語でのスピーチ(10 名)

順番に発表してもらった。日本語をひらがなで書いてきた人、ローマ字で書いてきた人それぞれでしたが、前 2 回の授業の中で、少しずつ準備しながら当日を迎えた。みんな緊張した面持ちだったが、とても上手にスピーチができ、すばらしかった。

⑩ 活用した日系人等(日本語を母語としない)の名簿

氏名	母語(国籍)	来日年(日)数	参加回数	当該教室での役割
高梨マルシア	ポルトガル語(ブラジル)	18 年	23 回	授業補助, 通訳
トモセ ジュリアナ	ポルトガル語(ブラジル)	13 年	5 回	通訳

⑪ 支援者の名簿(⑦以外)

氏名	所属	専門分野及び日本語教育に関する資格	参加回数	当該教室での役割

4 事業に対する評価について

① 当初の学習目標の達成状況

日本語能力にばらつきがあり、目標としているものも個人個人違うので、それを把握することが当初難しかったが、テキストにそって授業を行う中で、少しずつ学習することが身についていったと思う。ただし、授業を行っている間にもブラジルに帰国する人が絶えなかった。

② 学習者の習得状況

9ヶ月という短い期間であり、週1回の授業では、なかなか学習者にとって目に見える形での成果というのは期待できなかったであろうが、日本語に触れ、人から教わるということを通して学んだ経験は、必ず、次のステップにつながると確信している。

③ 日本語教室設置運営の効果、成果

来日してから働くことはあってもなかなか日本語を学習するという経験の少なかった日系ブラジル人にとって、自宅から近く、自分の子どもや知り合いの子どもたちが学んでいるブラジル人学校で日本人の教師から直接学習できたことの意義は大きいと思う。金銭的にも、時間的にもなかなかゆとりのない彼らに、仕事の間とは違う場を提供できたことは成果として評価していいと思う。34人ものが参加したということは、こういう場を日系人が求めているという証明でもある。

④ 地域の関係者との連携による効果、成果 等

狭い地域に多くの日系ブラジル人が住んでおり、いろいろな方が見学に来てくれた。星の鑑賞会では、他の日本人との交流もあった。

⑤ 改善点、今後の課題について(具体的に記述する。)

a. 現状

多くのブラジル人が帰国したとは言え、まだ菊川を含め周辺にはたくさんのブラジル人が住んでおり、日本に家を購入し帰るに帰れないブラジル人もいるのが現状である。そんな中少しでも良い条件の職を求めているブラジル人にとって、以前のように日本語が出来なくても働くところはある、という認識はなく、日本語力が仕事に直結していると強く感じている人が多い。

b. 今後の課題

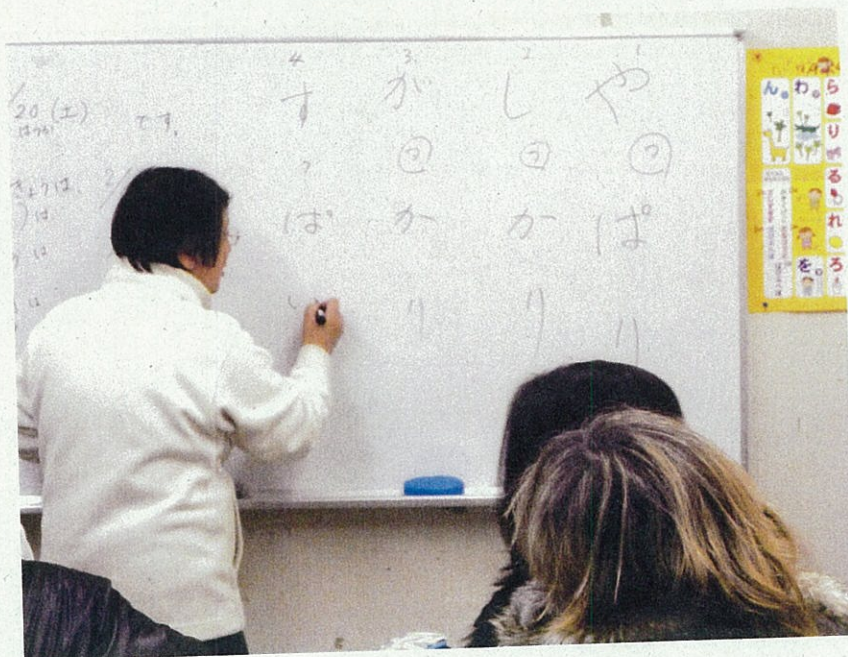
漠然とした初級日本語ではなく、もっときめ細かなクラス編成が必要である。例えば、日本語能力検定試験の1級から4級に照準を絞ったクラスや本当に初歩の日常会話のクラスなど。それに必要な日本語教師の確保も課題である。国語としての日本語ではなく、語学としての日本語を教える教師の養成も必要である。

c. 今後の活動予定、展望

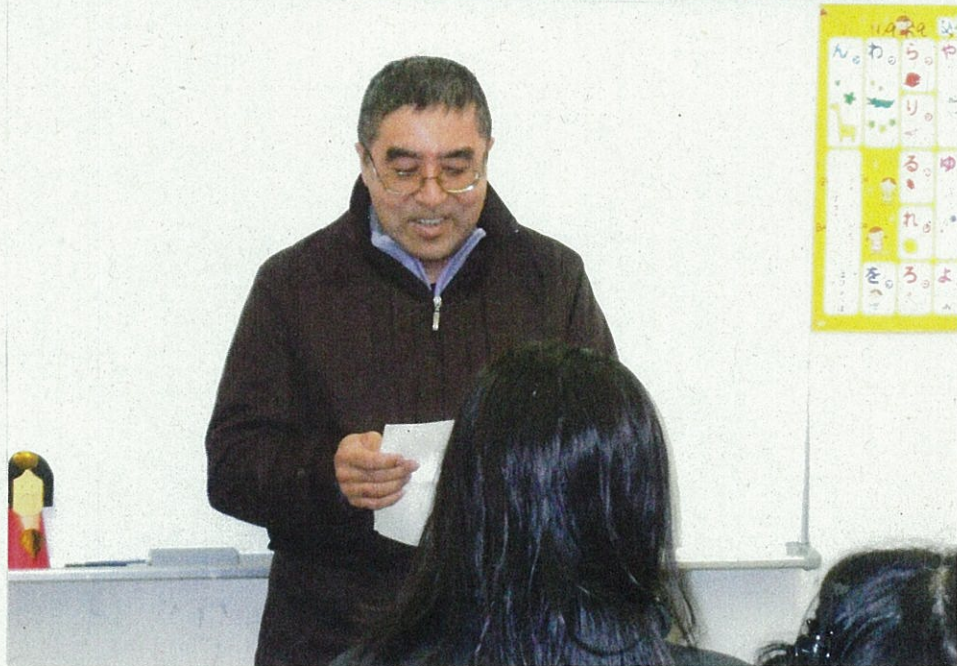
引き続き、日系ブラジル人のために日本語の教室を開催したい。まだ、具体的な日程は決まっていないが、同時に日本語教師の養成も行っていきたい。

⑥ その他参考資料

10月13日(土) 大人のための



3月13日(土) 手紙と茶会



3 日本語教室の開催について

- ① 日本語教室の名称 「子どものための日本語及び日本文化講座」 月曜コース
- ② 開催場所 ソヒゾ・デ・クリアンサ教育センター
- ③ 学習目標 年齢に応じた日本語教室を設置。日本語だけでなく広く日本文化の体験学習を行うことで、日本の生活に適応できるようにする。
- ④ 使用した教材・リソース 折り紙、書道のお手本、そろばん、ひらがなかるたなど
- ⑤ 受講者の募集方法 チラシを作り、ブラジル人が多く購読している情報誌とともに配布。
学校に通っているブラジル人の保護者やその関係者にもチラシを配布。
- ⑥ 受講者の総数 18 人
- ⑦ 開催時間数(回数) 58 時間 (全 28 回)

⑧ 日本語教室の具体的内容

回	開催日時	時間数	参加人数	国籍・母語（人）	教授者・補助者人数	内容
①	7月 6日 13:00~15:00	2 時間	10人	ブラジル・ポルトガル語（10人）	教授者1人 補助者1人	日本語 かたかな
②	7月13日	2	9人	同上（9人）	同上	日本語
③	7月27日	2	10人	同上（10人）	同上	書道
④	8月 3日	2	9人	同上（9人）	同上	日本語
⑤	8月17日	2	9人	同上（9人）	同上	日本語

8月31日(月)



毛筆
「つり」



ひらがな文の練習

11月9日(月)

剣舞



2月22日 料理
いちご大福



初めてにしては
みんな上手に
上手にできました！

"食べる"って
楽しい
"作る"って
もっと楽しい！



きちんと並ぶことや人の話を黙って聞くことなどについて、話をした。

平成 22 年 2 月 22 日 13:00～15:00 教授者: 眞野 麗子

日本の食べ物(料理) おやつ作り

* ご飯用のお米ともち米を比較。違いを認識させる。

* 蒸し器で柔らかくしたもちに片栗粉をつけ、丸くし、丸めたあんこと苺を入れ、苺大福を作った。すぐ覚え、上手にできた。(予想外)

* 自分で作ったものを自分で食べるのは最高という顔をしていた。

3 日本語教室の開催について

- ① 日本語教室の名称 「子どものための日本語及び日本文化講座」 木曜コース
- ② 開催場所 ソヒゾ・デ・クリアンサ教育センター
- ③ 学習目標 年齢に応じた日本語教室を設置。日本語だけでなく広く日本文化の体験学習を行うことで、日本の生活に適應できるようにする。
- ④ 使用した教材・リソース 折り紙、書道のお手本、そろばん、ひらがなかるたなど
- ⑤ 受講者の募集方法 チラシを作り、ブラジル人が多く購読している情報誌とともに配布。市内のブラジル人学校に通っているブラジル人の保護者やその関係者にも配布。
- ⑥ 受講者の総数 25 人
- ⑦ 開催時間数(回数) 52 時間 (全 26 回)

⑧ 日本語教室の具体的内容

回	開催日時	時間数	参加人数	国籍・母語(人)	教授者・補助者人数	内容
①	7月 9日 13:00~15:00	2 時間	5人	ブラジル・ポルトガル語(10人)	教授者1人 補助者1人	折り紙
②	7月16日	2	5人	同上(5人)	同上	日本語
③	7月23日	2	5人	同上(5人)	同上	書道
④	7月30日	2	6人	同上(6人)	同上	剣舞
⑤	8月 6日	2	6人	同上(6人)	同上	折り紙
⑥	8月20日	2	6人	同上(6人)	同上	折り紙
⑦	8月27日	2	7人	同上(7人)	同上	書道
⑧	9月 3日	2	5人	同上(5人)	同上	日本語
⑨	9月10日	2	8人	同上(8人)	同上	剣舞
⑩	9月17日	2	7人	同上(7人)	教授者2人	そろばん
⑪	9月24日	2	7人	同上(7人)	同上	書道
⑫	10月 1日	2	8人	同上(8人)	同上	日本語
⑬	10月22日	2	8人	同上(8人)	同上	書道
⑭	11月 5日	2	8人	同上(8人)	同上	日本語
⑮	11月19日	2	9人	同上(9人)	同上	書道
⑯	11月26日	2	11人	同上(11人)	同上	剣舞
⑰	12月 3日	2	8人	同上(8人)	同上	日本語
⑱	12月10日	2	10人	同上(10人)	同上	折り紙
⑲	12月17日	2	7人	同上(7人)	同上	剣舞
⑳	1月 7日	2	5人	同上(5人)	同上	日本語
㉑	1月14日	2	14人	同上(14人)	教授者2人	そろばん
㉒	1月21日	2	11人	同上(11人)	同上	書道
㉓	1月28日	2	11人	同上(11人)	同上	剣舞
㉔	2月 4日	2	5人	同上(5人)	同上	日本語
㉕	2月25日	2	17人	同上(17人)	同上	郷土の歴史的 建物を見学
㉖	3月 4日	2	5人	同上(5人)	同上	折り紙

⑨ 特徴的な授業風景(2~3回分)

平成21年8月20日(木) 13:00~15:00 教授者:太田 理恵

折り紙 ちぎり絵

* 花火の話をした後、絵本「しんちゃんのはなび」を読んだ。

* 色紙をちぎって黒画用紙に貼った。

* 細かくちぎって作る子、大きく作る子、いろいろな花火ができて、とても伸び伸び仕上がった。

平成 21 年 9 月 17 日(木) 13:00~15:00 教授者;伊藤 弘之、伊藤美子

そろばん

- * そろばんでの数の表し方
- * そろばんのたし方、ひき方 指の使い方
- * やさしい計算 $1+2$ 、 $3+5$ 、 $2+6$ 、 $4-3$ 、 $8-2$ など
- * そろばんにとっても興味があり、いつも授業を楽しみにしている。しかし、指の使い方が難しく、指導するのが大変だった。

平成 22 年 10 月 1 日(木) 13:00~15:00 教授者;渡邊たつえ

日本語

- * 右、左自分の体を使って右手、左手、右足、左足
- * 前から何番目
- * 伝言ゲーム 今日はいい天気です。昨日は雨でした。
- * かるた取り かるた取りに要する時間がだんだん短くなってきた。

4 事業に対する評価について

① 当初の学習目標の達成状況

日本文化を体験するという点では、いろいろなことを学ぶチャンスは子どもたちに与えられたと思う。ただ、一人一人の日本語力もばらばらで、興味の持ち方もそれぞれなので、あくまで入門という形であったのも事実である。しかし、これによって子どもたちだけでなく、保護者の理解も得られたことは大きいと思う。

② 学習者の習得状況

授業に大変興味を持って臨んでくれた。一つ一つの授業で学習したことは、次の喜びとなつてつながっていった。

③ 日本語教室設置運営の効果、成果

みんな初めての体験だったので、わくわく、ドキドキで始まった。日本に住んでいるというだけで、見たことも、やったこともないことだらけだったので、知的好奇心の満足という意味では大変成果があったと思う。

④ 地域の関係者との連携による効果、成果 等

⑤ 改善点、今後の課題について(具体的に記述する。)

a. 現状

ブラジル人学校でも週 1 回日本語の授業を行ってきたが、日本語学習に対するモチベーションは低く、何とか日本語学習が必要で、大事であることを子どもにも、保護者にも理解してもらおうといういろいろな試みを行ってきた。この事業もその一つである。長く日本に滞在している割には日本語はほとんど話せず、かといって早期にブ

ラジルに帰国するわけでもない。子どもたちの多くの可能性の芽を育むことができないでいるのが、現状である。

b. 今後の課題

日本語能力の向上に向けて、どんな授業をしていくことがいいのか(第二言語としての日本語)。日本語能力試験 4 級に今年合格した子どもが3人いるので、そういう子どもを表彰し、その子たちに続く子どもたちの養成。そして、4 級合格者は、3級を目指せるような学習指導と意欲の啓発等を考えていきたい。

c. 今後の活動予定, 展望

毎日日本語に触れる機会を学校の中で設ける。月1回でも今まで習った書道やそろばんなどを引き続き行えるか検討中である。

平成 22 年4月 11 日に近くのコミュニティーセンターでこの事業に携わった方々を招き、発表会及び親睦会を予定している。子どもたち、保護者の方も集まってもらい、作品を展示したり、日本語の歌を歌ったり、日本語のスピーチをしたりする予定である。

⑥ その他参考資料

9月17日(木) ズミ塾



算珠のい
初めて?!



＜おきり絵＞



＜日本語＞
かるた取り



2月25日

郷土の歴史的
建物と見学

すくなくには
古い建物に
あるとみんな
知りませんでした。

